

ダビデ  
聖徒伝 86


# 「主を愛する者の 絆をこそ」

I サムエル記18～20章

ダビデとヨナタン

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. サウルの嫉妬・ダビデとの確執 18章
- II. サウルの殺意・ダビデの逃亡 19章
- III. ダビデとヨナタンの別れ 20章
- IV. まとめと適用  
信仰の戦いを同労者と共に



ダビデの逃亡生活の  
始まりをヨナタンと  
の友情からたどろう

【無垢の時代】  
天地創造

【良心の時代】  
墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】  
バベルの塔事件

【約束の時代】  
アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】  
イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】  
聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】  
千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

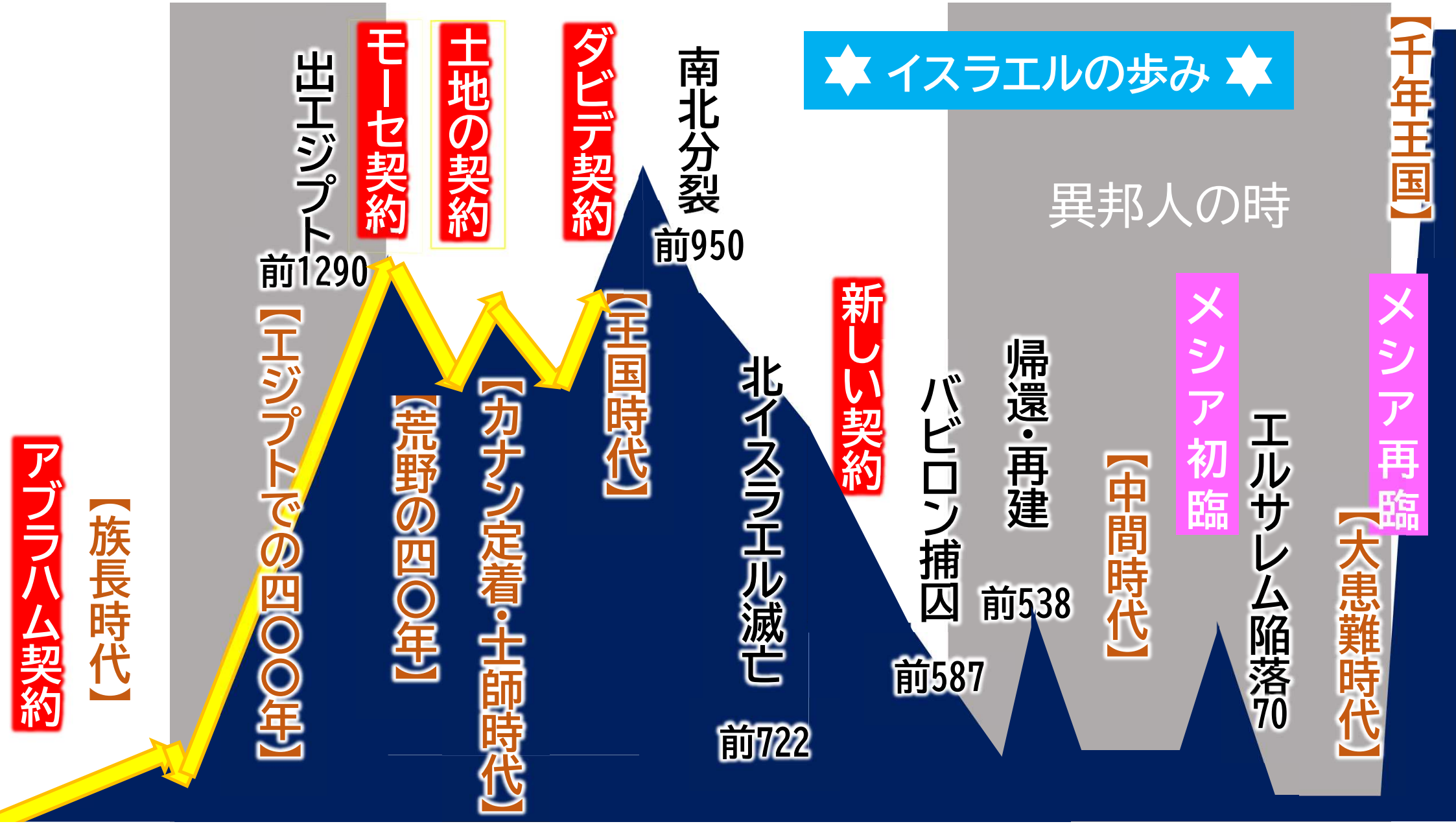
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプト

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂  
前950

北イスラエル滅亡  
前722

新しい契約

バビロン捕囚  
前587

帰還・再建  
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

サムエル記 第一

士師時代

サムエル

1:1~2:11	サムエルの誕生
2:12~3:21	サムエルの召命
4:1~7:17	奪われた契約の箱
8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

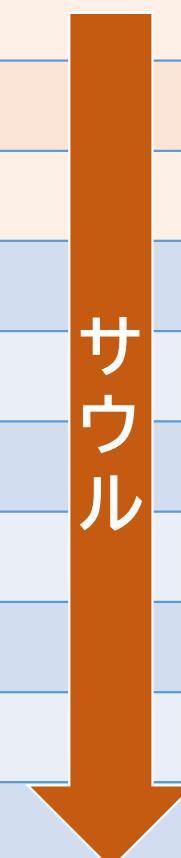
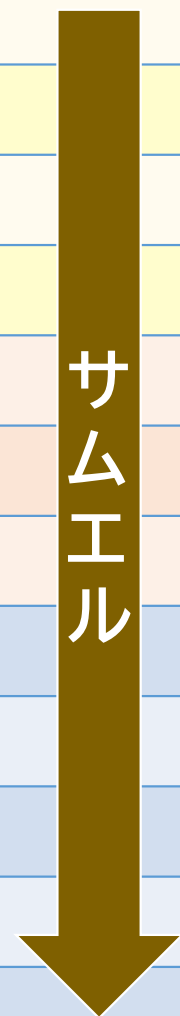
王政時代

サウル

10:11~11:15	油注ぎ
12:1~25	士師サムエルの民への告別
13:1~15:35	王が重ねた神への背き

ダビデ

16:1~13	油注ぎ
16:14~23	王宮での奉仕
17:1~58	ゴリヤテとの戦い
18:1~30	偉大な戦績・王の娘との結婚
19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
27:1~30:31	ペリシテ人の地で
31:1~13	サウルの死



## 【サウルの油注ぎ】 I サムエル8～10章

- 士師サムエルは、イスラエルを悔い改めに導き、40年間、裁き治めた。
- しかし、イスラエルは、真の王である神を退け、自分たちの上に立つ人間の王を願った。
- 神は、ベニヤミン族のサウルを王に選ばれた。サウルは、サムエルに油注がれ、王となった。
- 「油注ぎ(メシアツハ)」が、メシアの語源。



## 【ダビデの油注ぎ】 I サムエル11～17章

- サウルは、主に背き、子孫に続く王の系譜は断たれた。さらなる背きにより、王権すら剥奪されてしまった。  
→ 主の霊はサウルを去り、悪霊に苛まれる日々に。
- 神は、御心に叶った**真実の王**を立てた。それがダビデ。ユダのベツレヘム。エッサイの8番目の子に油注ぎが。  
→ **この日以来、主の霊はダビデに激しくくださった。**
- 当初、豎琴弾きとしてサウルに仕えていたダビデは、ペリシテの巨人ゴリヤテを倒し、兵士として名を挙げた。





I. サウルの嫉妬・ダビデとの確執 I サムエル記18章

ベツレヘム近郊



## 【ダビデとヨナタン】 I サムエル18:1

ダビデがサウルと語り終えたとき、ヨナタンの心はダビデの心に結びついた。ヨナタンは、自分自身のようにダビデを愛した。サウルはその日、ダビデを召しかかえ、父の家に帰らせなかった。\*

ヨナタンは、自分自身のようにダビデを愛したので、ダビデと**契約\***を結んだ。ヨナタンは着ていた上着を脱いで、それをダビデに与え、自分のよろいかぶと、さらに剣、弓、帯までも彼に与えた。

\*フルタイムで王に仕えることになったダビデ。

\***兄弟の契り** …肉の家族同様の関係を結んだ。

■信仰の勇者同士の間には芽生えた肉親以上の堅い絆。



## 【燃え上がる嫉妬】 I サムエル18:5~9

ダビデは、サウルが遣わすところどこへでも出て行き、勝利を収めた。サウルは彼を戦士たちの長とした。このことは、すべての兵たちにも、サウルの家来たちにも喜ばれた。皆が戻り\*、ダビデがあのでペリシテ人を討ち取って帰って来たとき、女たちは、イスラエルのすべての町から、タンバリンや三弦の琴をもって、喜びつつ、歌い踊りながら出て来て、サウル王を迎えた。女たちは、笑いながら歌い交わした。「サウルは千を討ち、ダビデは万を討った。」

サウルは、このことばを聞いて激しく怒り、不機嫌になって言った。「ダビデには万と言ひ、私には千と言ふ。あれにないのは王位だけだ。」その日以来、サウルはダビデに目をつけるようになった。

\*一連の戦いが終わった後に開かれた凱旋の祝いだろう。



## 【サウルの殺意】 I サムエル18:10~12

その翌日、わざわざをもたらす、神の霊がサウルに激しく下り、彼は家の中で狂いわめいた。\* ダビデはいつものように豎琴を手にして弾いたが、サウルの手には槍があった。サウルは槍を投げつけた。ダビデを壁に突き刺してやろうと思ったのである。ダビデはサウルの攻撃から二度も身をかわした。

サウルはダビデを恐れた。それは、【主】がダビデとともにおられ、サウルを離れ去られたからである。

\* 悪霊に満たされ、支配された状況。

■ 主から離れた者は、主に愛される者を恐れる。



## 【先立つダビデ】 I サムエル18:13~16

サウルはダビデを自分のもとから離し、彼を千人隊長にした。ダビデは兵の先に立って行動した。

【主】が彼とともにおられたので、ダビデは、行くところどこでも勝利を収めた。

彼が大勝利を収めるのを見て、サウルは彼を恐れた。

イスラエルもユダも、皆がダビデを愛した。彼が彼らの先に立って行動したからである。

\* 民は、荒野で主が先立たれたように王にも期待した。  
「I サム8:20 王が私たちをさばき、私たちの先に立って出陣し、私たちの戦いを戦ってくれるでしょう。」



民の期待に応えたのはダビデ!!


## 【サウルからの侮辱】 Iサムエル18:17~19

サウルはダビデに言った。「これは、私の上の娘メラブだ。これをおまえの妻として与えよう。ただ、私のために勇敢にふるまい、【主】の戦いを戦ってくれ。」 サウルは、自分の手を下ささないで、ペリシテ人に手を下させよう、と思ったのである。

ダビデはサウルに言った。「私は何者なのでしょう。私の家族、私の父の氏族もイスラエルでは何者なのでしょう。私が王の婿になるとは。」ところが、サウルの娘メラブをダビデに与えるというときになって、彼女はメホラ人のアデリエル\* に妻として与えられた。

\*ヨルダン川の北方の岸辺に住んでいた一族か。

➡彼の5人息子たちは後に殺される(IIサム21:8)



ゴリヤテ討伐の約束は？

ありえない侮辱

## 【さらなるたくらみ】 I サムエル18:20~21

サウルの娘ミカルはダビデを愛していた。そのことがサウルに告げられた。そのことは、サウルの目には良いことに思えた。\*

サウルは、「ミカルを彼にやろう。ミカルは彼にとって罾となり、ペリシテ人の手が彼に下るだろう」と思った。そして、サウルはもう一度ダビデに言った。「今日こそ、おまえは婿になるのだ。」

\*次女ミカルは、ダビデ抹殺に利用できるということ。



## 【固辞するダビデ】 I サムエル18:22～23

サウルは家来たちに命じた。「ダビデにひそかにこう告げなさい。『ご覧ください。王はあなたが気に入り、家来たちもみな、あなたを愛しています。今、王の婿になってください。』」

サウルの家来たちは、このことばをダビデの耳に入れた。ダビデは言った。「王の婿になるのがたやすいことに見えるのか。私は貧しく、身分の低い者だ。」

■あくまでへりくだる形で遠回しに断ったダビデ。

➡受けた恥辱と落胆を思えば当然のこと。



## 【サウルの出した条件】 I サムエル18:24～25

サウルの家来たちは、ダビデがこのように言っています、と言ってサウルに報告した。

サウルは言った。「ダビデにこう言うがよい。王は花嫁料を望んではない。ただ王の敵に復讐するため、ペリシテ人の陽の皮\* 百だけを望んでいると。」サウルは、ダビデをペリシテ人の手で倒そうと考えていた。

\* 男性の局部の皮。包皮。

➡ここでは無割礼の偶像礼拝者を討ち取った証拠。

■ どうてい実現不能な無理難題を押しつけるサウロ。

➡ダビデの勇猛果敢な性質をよく知った上での罠。





## 【約束を果たしたダビデ】 I サムエル18:26～27

サウルの家来たちはこのことばをダビデに告げた。王の婿になることは、ダビデの目には良いことに思えた。そこで、期限が過ぎる前に、ダビデは立って、部下と出て行き、**ペリシテ人二百人を討って、\*** その陽の皮を持ち帰った。こうしてダビデは、王の婿になるために、王に対して約束を果たした。サウルは娘ミカルを妻としてダビデに与えた。

**\*約束の倍のペリシテ人を討ったダビデ。**

**■民の手前、サウルも約束を反故にはできなかった。**



## 【祝福と呪い】 I サムエル18:28～29

サウルは、【主】がダビデとともにおられ、サウルの娘ミカルがダビデを愛していることを見、また知った。

サウルは、ますますダビデを恐れた。サウルはずっと、ダビデの敵となった。

ペリシテ人の首長たちが出陣して来たが、彼らが出て来るたびに、ダビデはサウルの家来たちのすべてにまさる戦果をあげ、彼の名は大いに尊ばれた。

### ■ サウルが陥っていく不信仰者の悪循環

①主への背き ➡ ②信仰者への嫉妬、怒り、攻撃  
➡ ③信仰者への守り・祝福 ➡ ④恐れ、嫉妬、怒り

■ 悔い改めなく堕ちた先に待つのは、自らの滅び。





Ⅱ. サウルの殺意 ダビデの逃亡 I サムエル記19章

エフライムの森

## 【公言したサウル】 I サムエル19:1~3

サウルは、ダビデを殺すと、息子ヨナタンやすべての家来に告げた。**\*** しかし、サウルの息子ヨナタンはダビデを非常に愛していた。ヨナタンはダビデに告げた。「父サウルは、あなたを殺そうとしています。明日の朝は注意してください。隠れ場にとどまり、身を隠してください。私はあなたのいる野に出て行って、父のそばに立ち、あなたのことを父に話します。何か分かったら、あなたに知らせます。」

**\* ついにダビデ殺害を公言したサウル王。**



## 【ヨナタンのとりなし】 I サムエル19:4~7

ヨナタンはダビデを弁護し、父サウルに言った。「王よ、しもべダビデのことで罪を犯さないでください。彼はあなたに対して罪を犯してはいません。むしろ、彼のしたことは、あなたにとって大きな益となっています。彼が自分のいのちをかけてペリシテ人を討ったので、【主】は大きな勝利をイスラエル全体にもたらしてくださったのです。あなたはそれを見て喜ばれました。なぜ、何の理由もなくダビデを殺し、咎のない者の血を流して、罪ある者となられるのですか。」 …。

■ヨナタンの理路整然とした説得に、サウルは、主にかけて、ダビデの無事を保証した。



## 【サウルの殺意】 I サムエル19:8～10

再び戦いが起こった。ダビデは出て行って、ペリシテ人と戦い、彼らを討って大損害を与えた。彼らはダビデの前から逃げた。

わざわざをもたらさず、【主】の霊がサウルに臨んだ。サウルは自分の家で座っていて、手には槍を持っていた。ダビデは豎琴を手にして弾いていた。

サウルは槍でダビデを壁に突き刺そうとした。ダビデがサウルから身を避けたので、サウルは槍を壁に打ちつけた。ダビデは逃げ、その夜は難を逃れた。

■ダビデに聖霊が働くと、サウルには悪霊が臨む。



## 【ダビデの逃亡】 I サムエル19:11～14

サウルはダビデの家に使者たちを遣わし、彼を見張らせ、朝に彼を殺そうとした。ダビデの妻ミカルはダビデに告げた。「今夜、自分のいのちを救わなければ、明日、あなたは殺されてしまいます。」

そして、ミカルはダビデを窓から降ろし、彼は逃げて難を逃れた。ミカルはテラフィム\* を取って、寝床の上に置き、やぎの毛で編んだものを頭のところに置き、それを衣服でおおった。

サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。ミカルは「あの人は病気です」と言った。

\* 偶像の総称 …家の守り神。財産権の証明(創31:19)。



## 【ミカルの自己弁護】 I サムエル19:15～17

サウルはダビデを見定めるために、同じ使者たちを遣わして言った。「あれを寝床のまま、私のところに連れて来い。あれを殺すのだ。」

使者たちが入って見ると、なんと、テラフィムが寝床にあり、やぎの毛で編んだものが頭のところにあっただ。

サウルはミカルに言った。「なぜ、このようにして私をだまし、私の敵を逃がして、逃れさせたのか。」ミカルはサウルに言った。「あの人、『逃がしてくれ。私がどうしておまえを殺せるだろうか』と私に言ったのです。」

■夫が脅迫と自己弁護。自己本位な性質は後に…。





## 【サムエルの元へ】 I サムエル19:18～20

ダビデは逃げて、難を逃れ、ラマのサムエルのところに来た。そしてサウルが自分にしたこと一切をサムエルに告げた。彼とサムエルは、ナヨテに行って住んだ。

するとサウルに「ダビデは、なんとラマのナヨテにいます」という知らせがあった。

サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。彼らは、預言者の一団が預言し、サムエルがその監督をする者として立っているのを見た。神の霊がサウルの使者たちに臨み、彼らもまた、預言した。…。

■ 神の霊に支配され、恍惚状態になった使者たち。

第二、第三の使者も同様に、使命を果たせなかった。



## 【預言の状態】 I サムエル19:22～24

サウル自身もラマに来た。彼はセクにある大きな井戸まで来て、「サムエルとダビデはどこにいるか」と尋ねた。すると、「今、ラマのナヨテにいます」という答えが返ってきた。サウルはそこへ、ラマのナヨテへ出て行った。彼にも神の霊が臨んだので、彼は預言しながら歩いて、ラマのナヨテまで来た。

彼もまた衣類を脱ぎ、サムエルの前で預言し、一昼夜、裸のまま倒れていた。このために、「サウルも預言者の一人なのか」\*と言われるようになった。

\*以前にもサウルに同様のことが(Iサム10:11)

■反逆者サウルへの神の一方的介入と、ダビデ救出。





### Ⅲ. ダビデとヨナタンの別れ

### I サムエル記20章

ヨナタンへ槍を投げるサウル

## 【ヨナタンに訴えるダビデ】 I サムエル20:1~2

ダビデはラマのナヨテから逃げて、ヨナタンのもとに来て言った。「私があなたの父上の前に何をし、私にどんな咎があり、どんな罪があるというのですか。父上が私のいのちを求めておられるとは。」

ヨナタンは彼に言った。「とんでもないことです。あなたが死ぬはずはありません。父は、事の大小を問わず、私の耳に入れずに何かをするようなことはありません。どうして父が、このことを私に隠さなければならないのでしょうか。そんなことはありません。」

■肉親の悪を正しく認識するのは存外難しい。

➡どうしても否定の感情や、庇う思いが先に立つ。



## 【ダビデの必死の訴え】 I サムエル20:3~4

ダビデはなおも誓って言った。\*「父上は、私があなただのご好意を受けていることを、よくご存じです。『ヨナタンが悲しまないように、このことを知らせないでおこう』とっておられるのです。けれども、【主】は生きておられます。あなたのたましいも生きておられます。私と死の間には、ほんの一步の隔たりしかありません。」

ヨナタンはダビデに言った。「あなたの言われることは、何でもあなたのためにします。」

\*ダビデの命を賭した訴えだったと分かる。

■人が、身近にある大きな悪に向き合うことの難しさ。



## 【ダビデの提案】 I サムエル20:5～6

ダビデはヨナタンに言った。「明日はちょうど**新月祭\***で、私は王と一緒に食事の席に着かなければなりません。でも、私を行かせて、三日目の夕方まで、野に隠れさせてください。もし、父上が私のことをとがめたら、おっしゃってください。『ダビデは自分の町ベツレヘムへ急いで行きたいと、しきりに頼みました。あそこで彼の氏族全体のために、年ごとのいけにえを献げる\*ことになっているからです』と。

\***新月祭** …民28:14。新月は、三日月の頃。月初め。  
月初めに全焼のささげ物をした。

\*氏族にとって特別な月の新月祭ということ。



## 【見定めの方法】 I サムエル20:7

もし父上が『良し』とおっしゃれば\*、あなたのしもべは安全です。もし激しくお怒りになれば、私に害を加える決心をしておられると御座います。

どうか、このしもべに真実を尽くしてください。【主】に誓って、しもべと**契約**を結んでくださったのですから。もし私に咎があれば、あなたが私を殺してください。どうして父上のところにまで、私を連れ出す必要があるのでしょうか。」

ヨナタンは言った。「とんでもないことです。父があなたに害を加える決心をしていることが確かに分かったら、あなたに知らせないでおくはずはありません。」

\* 聖霊がダビデに与えた知恵。見定めの方法。



兄弟の契りに  
訴えるダビデ

## 【誓うヨナタン】 I サムエル20:10~12

ダビデはヨナタンに言った。「もし父上が厳しい返事をなさったら、だれが私に知らせてくださいますか。」

ヨナタンはダビデに言った。「野に出ましょう。」  
それで、二人は野に出た。ヨナタンはダビデに言った。「イスラエルの神、【主】にかけて誓います。明日かあさっての今ごろまでに、父がダビデに対して寛大であるかを探ってみます。寛大でなければ、必ず人を遣して、あなたの耳に入れます。」





## 【ヨナタンの覚悟と願い】 I サムエル20:13～15

もし父が、あなたに害を加えようと思っているのに、それをあなたの耳に入れず、あなたを無事に逃がさなかったなら、【主】がこのヨナタンを幾重にも罰せられますように。【主】が父とともにおられたように、あなたとともにおられますように。

もし私がこれ以上生きるべきではないのなら、あなたは、【主】の恵みを私に施して、私が死ぬことのないようにする必要はありません。しかし、あなたの恵みを私の家からとこしえに断たないでください。【主】がダビデの敵を地の面から一人残らず断たれるときにも。」

＊神に背いた王の息子として、自らの死も覚悟。

■ダビデが王となると理解しているヨナタン。



## 【信仰者の契約】 I サムエル20:16~17

ヨナタンはダビデの家と契約\* を結んだ。「【主】がダビデの敵に血の責めを問われますように。」

ヨナタンは、ダビデに対する愛のゆえに、もう一度ダビデに誓わせた。ヨナタンは、自分を愛するほどに\*ダビデを愛していたからである。

### \*ダビデ王家との契約。

➡ダビデの油注がれた王としての正統性を認め、ダビデ王朝の子孫の庇護を求めるもの。

### \*律法の神髄を実行したヨナタン。

「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。

レビ記19:18」



## 【ヨナタンの提案】 I サムエル20:18～20

ヨナタンはダビデに言った。

「明日は新月祭です。あなたの席が空くので、あなたがいけないことが分かるでしょう。」

三日目に、日が暮れてから、あの事件の日\*に隠れた場所に行って、エゼルの石\* のそばにいてください。私は的を射るように、三本の矢をそのあたりに放ちます。

\*サウルが初めてダビデ殺害を公言した時(19:2)

\*エゼルの石 …地名のようだが、場所は不明。

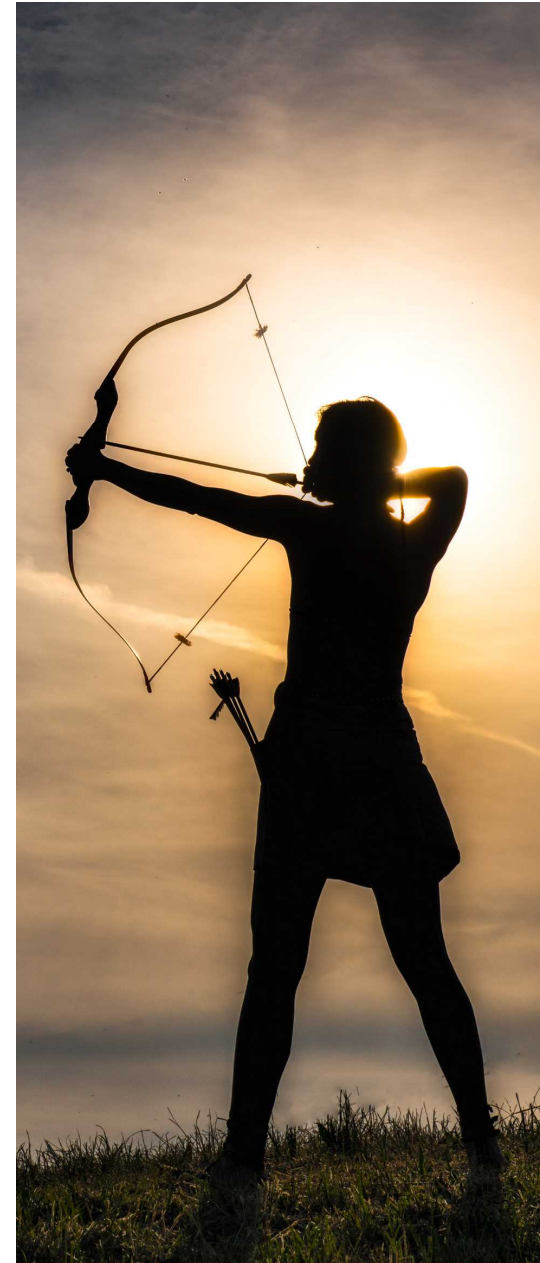


## 【ヨナタンの提案】 I サムエル20:21～23

私がお子をお遣わして、『行って、矢を見つけて来い』  
と言ひ、もしお子どもに『それ、矢はおまえのこちら側に  
ある。それを取って来い』と言ったら、出て来てくださ  
い。【主】は生きておられます。あなたは安全で、何事  
もありませんから。

しかし、私が少年に『それ、矢はおまえの向こう側だ』  
と言ったら、行ってください。【主】があなたを去らせ  
るのです。

私とあなたが交わしたことばについては、【主】が私  
とあなたの間のお永遠の証人です。」



## 【新月祭】 I サムエル20:24~27

ダビデは野に隠れた。新月祭になって、王は食事の席に着いた。

王は、いつものように自分の席、つまり壁寄りの席に着いた。ヨナタンはその向かい側、アブネルはサウルの横の席に着いたが、ダビデの席は空いていた。

しかし、その日、サウルは何も言わなかった。「思わぬことが起こって身を汚したのだろう。きっと汚れているためだろう」と思ったからであった。

しかし、その翌日、新月祭の二日目にも、ダビデの席は空いていた。サウルは息子のヨナタンに言った。「どうしてエッサイの子は、昨日も今日も食事に来なかったのか。」



## 【ヨナタンの】 I サムエル20:28～29

ヨナタンはサウルに答えた。「ベツレヘムへ行かせてくれと、ダビデが私にしきりに頼みました。

『どうか、私を行かせてください。氏族の祝宴がその町であります。長兄が命じているのです。今、あなたのご好意を得ているなら、どうか私を行かせて、兄弟たちに会わせてください』と言ったのです。それで彼は王の食卓に来ていないのです。」



## 【燃え上がるサウルの怒り】 I サムエル20:30～31

サウルはヨナタンに怒り\* を燃やして言った。  
「この邪悪な気まぐれ女の息子め。\* おまえがエッサイの子に肩入れし、自分を辱め、母親の裸の恥をさらしているのを、この私が知らないとでも思っているのか。

エッサイの子がこの地上に生きているかぎり、おまえも、おまえの王位も確立されない\*のだ。今、人を遣わして、あれを私のところに連れて来い。あれは死に値する。」

\* 殺害計画が頓挫した怒り。相手の方が上手だった

\* ヨナタンの母にまで、侮辱と猜疑心を抱いていた?!

➡ 依存的で自己評価の低い人ほど嫉妬心も強い。

\* ダビデが王となることを理解しているヨナタン。



## 【サウルの殺意】 I サムエル20:32～34

ヨナタンは父サウルに答えて言った。「なぜ、彼は殺されなければならないのですか。何をしたというのですか。」

すると、サウルは槍をヨナタンに投げつけて撃ち殺そうとした。それでヨナタンは、父がダビデを殺そうと決心しているのを知った。

ヨナタンは怒りに燃えて食卓から立ち上がり、新月祭の二日目には食事をとらなかった。父がダビデを侮辱したので、ダビデのために悲しんだからである。





## 【約束の朝に】 I サムエル20:35～38

朝になると、ヨナタンは小さい子どもを連れて、ダビデと打ち合わせた時刻に野に出て行った。

そして子どもに言った。「走って行って、私が射る矢を見つけておいで。」子どもが走って行くと、ヨナタンは、その子の向こうに矢を放った。

子どもがヨナタンの放った矢のところまで行くと、ヨナタンは子どものうしろから叫んだ。「矢は、おまえより、もっと向こうではないか。」

ヨナタンは子どものうしろから、また叫んだ。「早く。逃げ。立ち止まってはいけない。」その子どもは矢を拾って、主人ヨナタンのところに来た。



## 【ダビデとヨナタンの別れ】 I サムエル20:39～42

子どもは何も知らず、ヨナタンとダビデだけに、その意味が分かっていた。ヨナタンは自分の弓矢を子どもに渡し、「さあ、これを町に持って行っておくれ」と言った。

子どもが行くと、ダビデは南側から出て来て地にひれ伏し、三度礼をした。二人は口づけし、抱き合って泣いた。ダビデはいっそう激しく泣いた。

ヨナタンはダビデに言った。「安心して行ってください。私たち二人は、『【主】が、私とあなた、また、私の子孫とあなたの子孫との間の永遠の証人です』と言って、【主】の御名によって誓ったのです。」そして、ダビデは立ち去った。ヨナタンは町へ帰って行った





## IV. まとめと適用 信仰の戦いを同労者と共に

エフライムの山地

## 【サウルの陥った罪の悪循環】

① **主への背き** …律法を破り、主にささげるべき物を自分のものに。

② **信仰者への嫉妬** …「万を討った」ダビデへの嫉妬。

③ **信仰者への怒り・攻撃** …ダビデに明確な殺意を抱き、実行。

④ **信仰者が神に守られ、祝福される** …ダビデは何度も主に守られた。

⑤ **さらなる怒り** …頑なにされたサウルを待つのは自らの滅び。

■ 不信仰から自己卑下と嫉妬が生まれ、さらに怒りと敵意が生じる。  
➡ 悔い改めなく、嫉妬と怒りを燃え上がらせれば、待つのは自滅。

## 【契約の神は愛の神・愛を妨げる法はない】

- ダビデとヨナタンの愛は、同性愛者の自己正当化に度々用いられる。
- 聖書は明確に、夫婦以外の性行為の一切を禁じている。
- 一方で、同性も異性も、愛を妨げる法は聖書にない。
  - ➔ 同性愛者が訴える問題の本質は、あくまでも性的欲望にすぎない。聖書の教える愛とは、まったく無関係の次元の違う事柄。
- 聖書の記す真実の愛とは、
  - ★ 神から無条件に注がれる愛 ➔ 主が一方的にイスラエルを選ばれた。
  - ★ 神の確かな約束に基づく愛 ➔ 主がイスラエルと約束を結ばれた。

## 【ヨナタンに学ぶ信仰者の愛の道】

■ヨナタンは、**主の愛に生きる**者としてダビデを愛し、**兄弟契約**を結んだ。  
→神の愛は、**無条件に注がれる愛**。そして、**確かな約束に基づく愛**。

■ヨナタンのダビデへの愛は、**主の律法に基づく愛**。

「Iサム 20:17 ヨナタンは、ダビデに対する愛のゆえに、もう一度ダビデに誓わせた。ヨナタンは、**自分を愛するほどにダビデを愛していたからである。**」

「レビ 19:18 あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。**あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。**わたしは【主】である。」

## 【ヨナタンの愛が示す、主イエスの愛】

### ■ 律法が命じる隣人愛

「レビ 19:18 あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」

➡ 主イエスは、この律法から、隣人愛を強く命じられた。

### ■ 律法の命じる隣人とは誰か？

➡ 第一義的には、イスラエル。(ここは重要!!)

真のイスラエルは、主を信頼し、主の律法、主の命令に生きる者。

※ 主イエスの「よきサマリア人のたとえ(ルカ10:33)」

➡ たとえ話の舞台は、エルサレムへの巡礼路。

➡ 強盗に襲われた巡礼者を救ったサマリア人もまた主の信仰者。

## 【私たちが覚えて祈り、支えるべき隣人とは？】

■主に忠実に歩む、主の働き人を覚えて祈り、具体的に支えよう。

- ・霊的戦いの矢面に立つリーダーたち
- ・日々の中で戦っている一人の信仰者のことも。

■何より第一に、真のイスラエルなる信仰者の隣人を覚えよう。

- ・霊的戦いの最前線に置かれたイスラエルのメシアニック・ジューを!!

※)エイタンバール師と正統派ラビの口伝律法の正当性を巡る論争。

論戦は、エイタンバール師優位も、ラビたちに法的訴訟の動き。

■隣人として何よりあるべきは、信仰の戦いの同労者であること。

**主にある兄弟姉妹と共に、あなたの信仰の戦いを誠実に戦おう。**



「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

信仰(しんこう)の友として、ダビデと歩(あゆ)んだ ヨナタンのように、

信仰(しんこう)の戦(たたか)いに 召(め)された 隣人(りんじん)と

共(とも)に 戦(たた)う者(もの)としてください。

御霊(みたま)によって この身(み)をふるいたたせ、

恵(めぐ)みのうちに 用(もち)いてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」